

# 札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会

## 第2回会議 議事次第

日 時 平成28年(2016年)5月16日(月)  
17時～  
場 所 わくわくホリデーホール  
第2会議室

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 取組の方向性と課題

##### ア 事務局説明

- ・ 第1回会議の振り返り
- ・ 既存事業の概要

【資料1】

【資料2】

##### イ 意見交換

- ・ 取組の方向性と観点について
- ・ 各事業の役割と課題について

#### (2) 調査項目

##### ア 事務局説明

- ・ 調査の概要

【資料3】

##### イ 意見交換

- ・ 調査項目について

【資料4】

### 3 閉 会

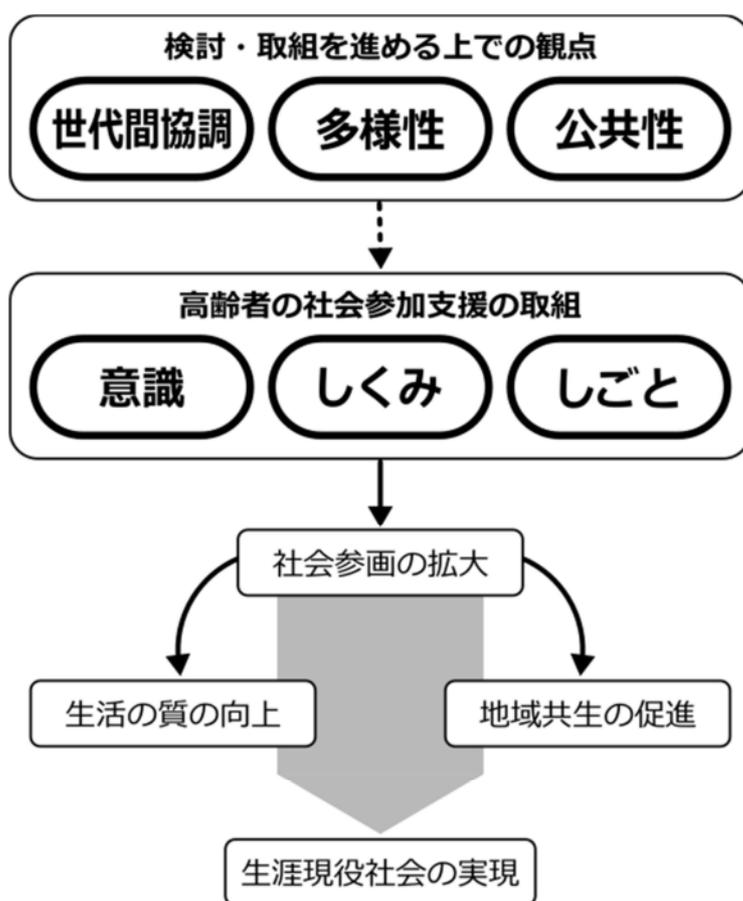


## **配布資料**

- 資料 1 今後の高齢者の社会参加支援（第 1 回会議振り返り）
- 資料 2 高齢者の社会参加支援の既存事業一覧（保健福祉局所管）
- 資料 3 アンケート調査の実施について
- 資料 4 調査項目検討シート

## 今後の高齢者の社会参加支援（第1回会議振り返り）

第1回会議では、今後の高齢者の社会参加支援について、意見交換を行いました。各委員からの意見を、「検討・取組を進める上での観点」3項目（世代間協調、多様性、公共性）と、「高齢者の社会参加支援の取組」3項目（つづける意識、つなげるしくみ、やりたいしごと）に分類し、整理しました。



## 1 検討・取組を進める上での観点

各委員から、今後の検討・取組を進める上での着眼点や留意点となるような意見があり、主な意見を、《世代間協調》、《多様性》、《公共性》の3つの観点に分けて整理し、観点ごとに要約しました。

### (1) 世代間協調の観点

第1回会議でのご意見
・高齢者施策に対して若い人はどう考えているか。今後の高齢者施策を検討する上で、若い人達をどう説得するかが一つの問題。
・若い人の意見も取り入れながら、高齢者支援の在り方について考えていきたい。
・高齢者だけの集まりではなく、色々な世代が参加し、その中で、高齢者がリーダーシップをとれるような役割を担うとよい。
・若い人もいずれ高齢者になるので、小さい頃から高齢者との付き合いを上手にするためのコミュニケーションを盛んにすることで高齢者のコミュニケーション能力も上がる。
・町内会の防災は若い人でなければならない。地域で何か起きたとき、現役の人が活動できる社会でないと、本当の市民社会ではない。
・なんとか若い人が、町内会に入っていける仕組みを作れないか
・年齢で線引きするやり方はよくない。
・高齢者が地域活動をし、それ以外の世代は働くという年齢による住み分けができているというのは、ある意味、年齢差別。
・高齢者に手厚くするというのも年齢差別。

#### 要約

高齢者の社会参加支援を考えるに際し、高齢者だけではない多世代の協調を図る必要がある。世代の相互理解があった上で、分かち合い、補い合い、支え合えるような世代間の協調関係を築く観点を持つ。

## (2) 多様性の観点

第1回会議でのご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの趣味や思いは多様なため、多様性にどう応えていくかを考えたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>団塊の世代は、今の高齢者とは違う余生の過ごし方をするだろう。(ゲートボール→パークゴルフ→ロックバンド)。新しい芽をみつけていく視点も必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>女性は社会化されており、男性は全く社会化されていない。(女性と男性は全然違う)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会への加入率というのは、地域の特性や町内会が成り立っている環境によって差があり、100%近くの住民が加入している地域もあれば、50%を切る地域もある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「たまり場」を作ることの意義。町内会には行きたくないけど、違う町内から来ることもある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会単位で筋力アップとか、専門家が教えてくれるような介護予防施策が充実すれば、人が集まる。場所についても、いろいろな方が集えるようなコミュニティができれば、そこで短時間で働く方も出てくるだろう。</li> </ul>

**要約**

高齢者の社会参加支援を考えるに際し、性別・年代・世帯構成・居住地域などにより多くの差異があることに配慮する必要がある。個別的な条件やニーズなど、多様性に応じられる幅広い選択肢を確保する観点を持つ。

## (3) 公共性の観点

第1回会議でのご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティや行政が信用できなければ、自分の時間やお金を使って社会参加することはできない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きているということは社会になんらかの責任を果たしてる」という認識が高齢者にはない。「自分のため」ではなく「社会のため」に生きているという自覚が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びのようなもので社会は活性化しない。関心のあるものは勝手にやる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引退した人の「ひまつぶし」、「健康管理」のような発想は全部やめて、いかにして社会の一員として最期まで役に立ってもらえるかという視点が重要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの政策が本当によいのかという思いがある。社会人として責任を最後まで果たしてくれる高齢者に対して、行政の施策を考えてもらいたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に関する事業に税金をどこまで使うのか。社会の再生産のため、社会の維持のために税金を使うことが重要。</li> </ul>

**要約**

高齢者の社会参加支援を考えるに際し、目的を明確にし、限られた財源を効果的かつ効率的に活用する必要がある。社会参加を、個人の幸福だけではなく公共の福祉にも資するものとする観点を持つ。

## 2 高齢者の社会参加支援の取組

各委員から、今後、高齢者の社会参加支援として取り組む方向性となるような意見があり、主な意見を、《「つづける意識」をつくる》、《「つなげるしくみ」をつくる》、《「やりたいしごと」をつくる》の3つの方向性に分けて整理し、方向性ごとに要約しました。

### (1) 「つづける意識」をつくる

第1回会議でのご意見
・もともと社会の組織の中で社会人として活動しているので、定年を迎え組織から外れると社会人としての活動ができなくなる現状がある。
・高齢者には、働くことの意識改革が必要（サラリーマン時代の組織や役職がなくなった定年後における働くことへの意識改革）
・昔の老後というと、最後に好きなことをやりましょうというご褒美型の老後であったが、今の時代は、退職後の20年以上を老後と考えると、昔の老後の考え方を変えなければならない。
・定年前から社会参加することで、定年後の社会参加への意識を作れるのではないか。
・社会全体が高齢者に期待するという考えを、当たり前とする社会に。
・現役を離れても、地域の中で何ができると考える意識を持たせることが町内会などの活動には必要。
・元気だから働いているのではなく。やらなければならないと思うから元気。
・現役であるためには、健康を保たなくてはならない。また、働いて賃金を得る、地域活動をすることが現役であるということ。

#### 要約

年齢によらず社会との関わりの中で持てる能力を発揮し、できる人ができることをする意識を社会全体で共有するための取組が必要である。誰もが生涯にわたって社会の一員でありつづけるという意識づくりが求められる。

## (2) 「つなげるしくみ」をつくる

第1回会議でのご意見
・町内会のPRをしても、振り向いてもらえない。参加する機会さえあれば、今まで気づかなかったこともわかる。自主性だけではなく、まず参加させることが必要。
・麻生地区のお寺を借りてマルシェを通じて、ボランティアをやりたいと思っている人が参加できるような仕組みを考えている。
・女性はPTAから町内会に。育児が終わってから子育て支援活動に、というような社会参加活動に繋がる流れがあると思うが、今の時代では、共働きが増え、PTAの担い手も不足している状況。(社会参加のきっかけが失われ、女性も社会性を失ってきている)
・高齢者の就業意欲はとても高く、働き続けられるまで働きたいと思っている人が一番多い。そのための健康づくりやスキルアップに対する助成も必要になってくると思う。
・高齢者が仕事をしやすいようにコーディネートすることが大事。
・市が高齢者の活動を支える際には、お金の面だけではなく、環境整備やネットワークづくりを支援することも大事。
・働く意欲のある人が働ける受け皿を企業や社会がつくっていくことが必要。
・定年になって、突然、老後の余生の過ごし方に切り替わるのではなく、今やっていることを継続できる方が取り組みやすい。
・定年前から企業が社会参加(ボランティア等)のために休暇を与え、社会参加することが大事だということを社員に発信するための制度を設けているという話から、企業がきっかけを与えることは、企業の役割として重要ではないか。
・参加するのに、敷居が低くなる報酬とほどのくらいだろうか。

## 要約

高齢者が実際に社会参加するために、活動に参入する契機を得られ、活動しやすくするための学習や訓練を受けられ、仕事や活動に出会えるなど、意欲と役割を結びつけるための取組が必要である。参加を後押しする仕組みづくりが求められる。

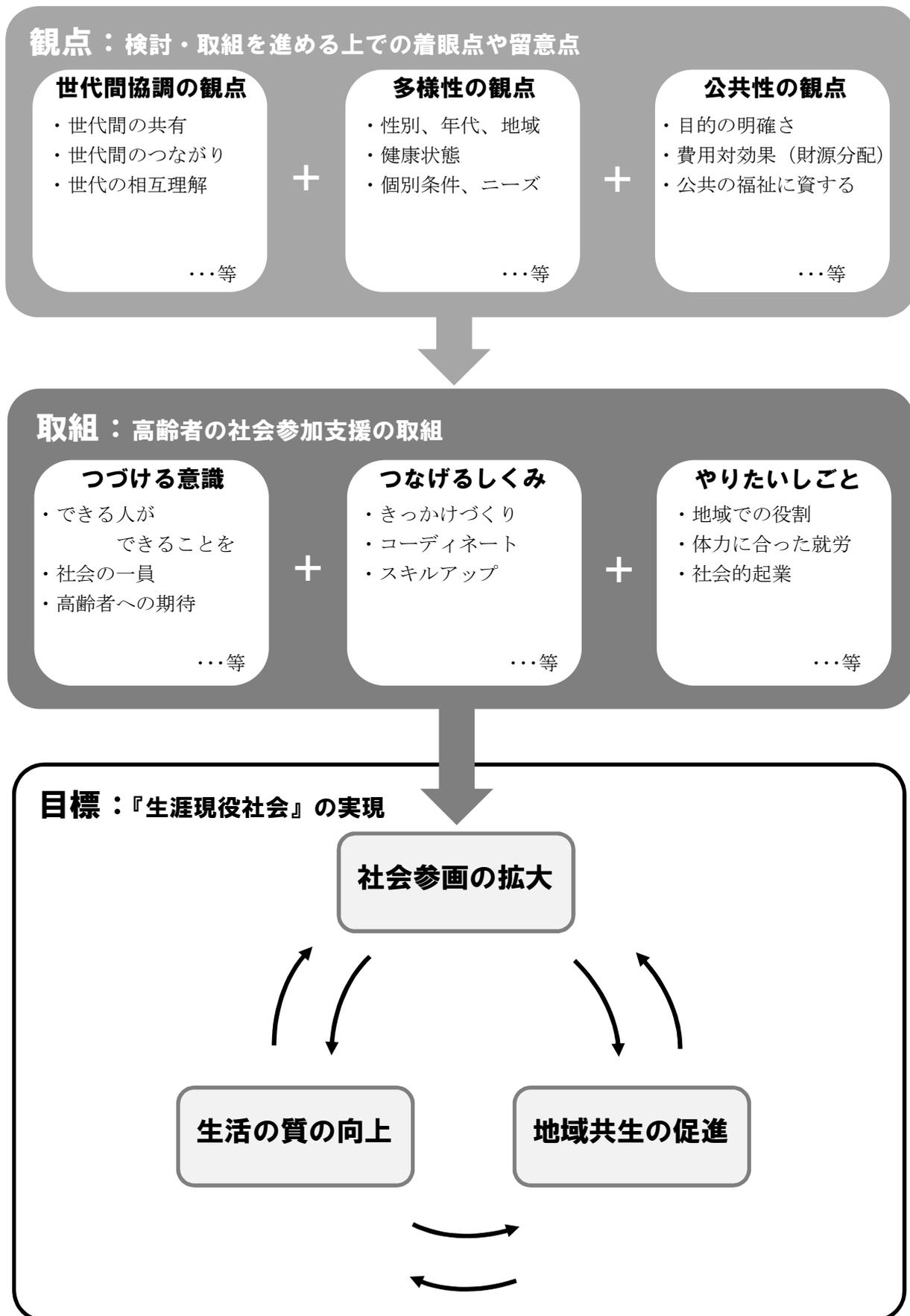
## (3) 「やりたいしごと」をつくる

第1回会議でのご意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども食堂を始めようとした際に、料理ができる人を探したところ、昔病院で調理していた経験のある65歳以上の方が参加してくれた。活動したいと思っている人は地域にたくさんいるのを感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアサロンの男性利用者からの声として「男性は役割がないと来づらい」「何かやらせてほしい」「仕事をください」というものがあった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会参加の意識を高める広報キャンペーンの他に、具体的に参加できる色々なオプションがないと、とっかかりが見つからない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会への参加を促すには、東京等での例のように、NPOなどの法人が町内会活動を仕事として行なうという方法についても可能性の一つとを感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの社会では、働くことが重要と考えたときに、自分達で出資して、自分達で働くワーカーズ・コレクティブという組織のような、高齢者の方々に立ち上げる事業（起業）について考えたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3日、1回あたり3時間働いている人が、自分にとって、それがすごくいいと言っている。高齢になり、体力が落ちてきたときに、体力に合わせて働ける場所が必要だと感じる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢を重ねても働ける環境づくりが、企業にとっても、人材を補う点で大変意義があると思っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが健康なわけではない。健康でない人を支えなければならない。必要とされる社会的な仕事はたくさんある。年齢に関係なく社会化し、ビジネスにし、お金が回るようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の課題解決をできる働く場ができればいい。</li> </ul>

## 要約

志向や健康状態などの異なる多くの高齢者が、積極的に、また、無理をすることなく社会参加をするためには、具体的で明示的な選択肢が必要である。関心や条件に応じて自ら選び、役割を実感できるしごとづくりが求められる。

## 第1回会議振り返り まとめ



## 高齢者の社会参加支援の既存事業一覧（保健福祉局所管）

事業名	平成28年度予算	事業開始年
<b>① 介護サポートポイント</b>	<b>1,229万円</b>	<b>平成25年</b>
趣旨：高齢者が介護保険制度への理解を深め、社会参加や地域貢献を通じて、自身の健康増進や介護予防を図ることを目的として、高齢者の介護に関わるボランティア活動を促進 概要：介護サポーターとして介護保険施設などで行うボランティア活動に対してポイントを付与し、申請によりポイントに応じた現金を交付 ※受入施設は特養・老健（併設のデイサービスセンターを含む）	主な制度変更 — 市の課題認識 ●登録者のうち実際に活動する方が約5割に留まることへの対応策の検討 ●今後の活動状況等を見ながら、受入施設の拡大の検討	
<b>② 札幌シニア大学</b>	<b>642万円</b>	<b>平成13年</b>
趣旨：高齢者の社会活動を促進し、生きがいの向上を図り、地域社会に活動する高齢者の指導者養成を目的に系統的な学習及び実践の場を提供 概要：修学期間2年間、年間約50講座（月2～3日、1日2講座程度、1講座1.5時間程度） 修学負担金 各年1万2千円（2年間で2万4千円）	主な制度変更 H21～26 修学負担金の段階的見直し （6,000円/2年⇒24,000円/2年） 市の課題認識 ●より実践的なカリキュラムの充実 ●卒業生の地域活動への参加促進策	
<b>③ はつらつシニアサポート</b>	<b>505万円</b>	<b>平成17年</b>
趣旨：高齢者の地域貢献に結びつけるきっかけづくりとなるような生きがい活動で、高齢者団体等の自主的な運営により実施される事業に対して支援 概要：シニアチャレンジ事業～高齢者団体による地域貢献に係る先駆的な取組に対し、経費の一部を補助 シニアサロンモデル事業～高齢者団体が自主的に運営し、地域貢献などの生きがい活動を行うサロンに対し、経費の一部を補助	主な制度変更 H17 シニアサロンモデル事業開始 H18 シニアチャレンジ事業開始 ※補助額、補助要件は適時見直しを実施 市の課題認識 ●より多くの高齢者が、自主的で、継続可能な活動を始めるきっかけとなるよう、補助制度の仕組みについて検討	
<b>④ 老人クラブ活動費補助</b>	<b>4,520万円</b>	<b>昭和34年</b>
趣旨：地域貢献活動をはじめ多様な自主的活動を促進するため老人クラブの活動費を補助 概要：組織～おおむね60歳以上の会員30人以上で構成 活動～地域を豊かにする社会活動（ボランティア活動等）、生活を豊かにする活動（文化・教養活動等）などを、年間を通じて恒常的かつ計画的に行う	主な制度変更 H25 補助制度改正 （会員数区分による一律補助 ⇒会員数区分基本額＋社会活動加算） 市の課題認識 ●会員数の増加につながる支援策の検討	
<b>⑤ 高齢者福祉バス</b>	<b>3,090万円</b>	<b>昭和46年</b>
趣旨：高齢者団体が地域貢献活動、介護予防活動などを行う際に利用できる高齢者福祉バスの経費を補助 概要：札幌市社会福祉協議会が民間バスを借上げ、「高齢者福祉バス」として利用に供する経費を、利用実績に応じて補助 利用団体負担は、バス借上料と運転手宿泊料の各3割、ガイドを利用した場合のガイド料とガイド宿泊料の全額	主な制度変更 H21 利用団体一部負担導入 H22 利用団体の拡大等 H24 利用団体負担の軽減等 市の課題認識 ●今後の利用数の推移により、事業費増大に対応した持続可能な制度の確保	

事業名	平成28年度予算	事業開始年
<b>⑥ 敬老優待乗車証</b>	<b>49億1,470万円</b>	<b>昭和50年</b>
趣旨：多年にわたり社会の発展に寄与してきた高齢者を敬愛するとともに、外出を支援することで、社会参加を促し、豊かで充実した老後の生活を送れるよう、市内各公共交通機関を利用できる敬老優待乗車証を交付 概要：利用上限7万円、利用者負担10～24.3% 乗車できる交通機関：市営交通（市電、地下鉄）、中央バス、JRバス、じょうてつバス、夕鉄バス、ばんけいバス	主な制度変更 H17 利用上限、利用者負担を導入 H21 利用上限の引き上げ（5万円⇒7万円） H29 ICカードへ移行予定 市の課題認識 ●事業目的の明確化、費用対効果の検証 ●事業費増大に対応した持続可能性の確保	
<b>⑦ 保養センター駒岡</b>	<b>7,972万円</b>	<b>昭和61年</b>
趣旨：高齢者等に対し低廉で健全な保健休養の場を提供 概要：宿泊（高齢者・身体障がい者等：5,700円～、付添人：6,300円～） 日帰り入浴等（高齢者・身体障がい者等：310円～、付添人：420円～） イベント等でのボランティア活動機会の創出や運営業務における就労体験の場の提供 パーク・パットゴルフ（一部陥没のため利用休止中）	主な制度変更 H25 策定の「保養センター駒岡の活用に係る基本方針」に基づき、H28 リニューアルオープン 市の課題認識 ●基本方針に基づく新たな取組の効果を見極めつつ、より良好な運営を目指す	
<b>⑧ 老人福祉センター</b>	<b>4億2,060万円</b>	<b>昭和57年※</b>
趣旨：高齢者の生活や健康の相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための場を提供 概要：各種相談、機能回復訓練、介護予防事業、娯楽、教養講座等を実施 利用は無料（講座の原材料費等については実費負担あり）、ただし浴室の利用には200円/回が必要 市内10施設（各区1施設） ※S57～H11順次開館	主な制度変更 H22 浴室利用料金（200円/回）を導入 市の課題認識 ●高齢者の活動の場、介護予防等の場として、より有効な施設の運営 ●関係機関や地域との連携を促進	
<b>⑨ おとしより憩の家</b>	<b>2,208万円</b>	<b>昭和54年</b>
趣旨：地域の高齢者に対して、教養の向上、レクリエーション等のための場を提供 概要：運営基準に基づき、「おとしより憩の家」を運営している団体に対し、その経費の一部を補助 市内62か所 利用は無料 主な活動内容は、茶話会、囲碁、将棋、マージャン、カラオケ等	主な制度変更 H19 新規補助団体の募集終了 ※H22 事業仕分け結果「廃止を含む見直し」 市の課題認識 ●活動内容や利用者が限定的にならない運営の確保 ●活動状況によらない一律補助の見直し検討	
<b>⑩ ねんりんピック</b>	<b>902万円</b>	<b>昭和63年</b>
趣旨：60歳以上の高齢者を対象としたスポーツ・文化・健康と福祉の総合的な祭典（交流大会等、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与することを目的とし、毎年、都道府県の持ち回りで開催） 概要：選手団派遣に係る費用（交通費・宿泊費・ユニフォーム代）の一部を本市が負担	主な制度変更 S63 厚生省創立50周年記念事業初開催 H20 選手派遣費用の市負担減額（1/2⇒1/3） H28 選手派遣費用の市負担減額（1/3⇒1/4） 市の課題認識 ●事業の広報等による高齢者のスポーツ活動への参加促進	

## アンケート調査の実施について

高齢者の社会参加支援の在り方検討の参考とするため、アンケート調査を実施し、年齢と社会参加に関する意識（実態・ニーズ）等を把握する。

### 1 調査の概要

- (1) **調査の名称** (仮) 年齢と社会参加に関する市民意識調査
- (2) **調査の目的** 生涯現役社会の実現に向けた高齢者の社会参加支援の具体策の立案にあたり、年齢と社会参加に関する意識（実態・ニーズ）等を把握し、検討の参考とする。
- (3) **調査の日程**
- |         |                |
|---------|----------------|
| ア 調査基準日 | 平成28年8月1日（月）   |
| イ 委員会報告 | 平成28年9月（第5回会議） |
- (4) **調査の手法等**
- |        |                                          |
|--------|------------------------------------------|
| ア 調査方法 | 郵送による無記名アンケート調査                          |
| イ 調査対象 | 平成28年7月1日時点で本市に住民登録がある市民                 |
| ウ 調査数  | 8,000人<br>(65歳以上4,000人、20歳以上64歳以下4,000人) |

### 2 調査の内容

- 資料4「調査項目検討シート」をもとに、どのような調査項目を盛り込むべきか、ご意見をお願いします。
- いただいたご意見に基づき事務局が作成した調査票素案について、次回の委員会でお諮りします。

## 調査項目検討シート

	調 査 項 目
自身の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別、年齢、居住区、職業、学歴</li> </ul>
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身の健康状態、家計の状況、生活全般の満足度</li> <li>・ 意欲や能力を生かす機会の有無</li> </ul>
就 労	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労の有無、働いている（働いていない）理由</li> <li>・ 何歳まで働きたいか（65歳以上）、自身が高齢者となったときに何歳まで働けると思うか（64歳以下）</li> <li>・ 仕事を選ぶ上で重視すること（収入が多い、経験を生かせるなど）</li> </ul>
社会活動 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会活動（ボランティア活動など）や地域活動（町内会活動など）への関心の有無</li> <li>・ 関心のある社会活動や地域活動の内容</li> </ul>
高齢者と社会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者が社会の中で活躍できる年齢</li> <li>・ 社会の中で求められている役割（65歳以上）、社会の中で高齢者に求める役割（64歳以下）</li> </ul>
高齢者の社会参加を 支援する行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 札幌市が重点的に取り組むべき高齢者の社会参加支援策</li> </ul>